

国際研究集会の御案内

東京大学史料編纂所では、日本学士院の支援を得て、海外に所在する日本関係史料の系統的な調査・研究と収集に取り組んでいます。今年度は、ドイツ・オーストリアにおける史料調査（古写真含む）の成果について、ボン大学のペーター・パンツァー名誉教授に御報告いただきます。パンツァー教授は『日本オーストリア関係史』（竹内精一・芹沢ユリア訳、創造社、1984年）などを著され、ドイツ語圏での日本関係史料研究の第一人者です。多くの方のご参加をお待ちしています。

在外日本関係史料をめぐる国際研究集会

日時：2012年2月21日（火）、14:00～17:00
会場：東京大学史料編纂所（大会議室）

〔報告〕ボン大学ペーター・パンツァー名誉教授 「ドイツとオーストリアの文書館における日独/日奥関係の史料について」

（最新の調査成果）パンツァー教授の協力を得て、史料編纂所のプロジェクト（研究代表：箱石大准教授）では、ドイツ・フライブルクの連邦軍事文書館が所蔵する史料の共同研究を実施しました。同館のプロイセン海軍文書から幕末維新期の日本関係文書を抽出し、デジタル画像データで収集して全文を翻刻、さらにその一部を翻訳し、日本側史料とも併せて内容を分析しました。その中には、戊辰戦争期におけるプロイセンと会津・庄内藩との秘密交渉に関する文書も含まれています。こうした最新の調査成果も報告されるものと思います。

※当日は、宮田奈々氏（ボン大学）に、ドイツ・マンハイムで開催した「遠来の友/日独修好150周年記念展覧会」の概要紹介と史料調査の新知見について関連報告をお願いします。また、この間の古写真調査の成果として、「オーストリアの写真家モーザー・コレクション展—ガラスネガから復元する明治初期の日本—」（20・21日、1階展示ホールほか）を開催します。是非ご来場ください。

▼21日研究集会の終了後、レセプションを予定。



史料編纂所大会議室（会場は研究所の向かい側の建物、地下1階です。）

主催/日本学士院・ 東京大学史料編纂所

連絡先：科研事務局 03-5841-8411

科学研究費補助金基盤研究（C）「維新政府による情報・宣伝活動の政治史的研究」（研究代表者：箱石大）・同基盤研究（A）「ロシア・中国を中心とする在外日本関係史料の調査と研究資源化に関する研究」（研究代表者：保谷徹）

※本研究集会は、日本学士院による日本関係未刊行史料調査事業（国際学士院連合関連事業）の一環として行われます。

モーザー撮影によるガラスネガが、母国オーストリアに大量に残っていました。湿板写真をデジタルで引き延ばし、1870年代初頭の日本を蘇えさせます。（写真は日本橋）